

令和7年度 事業計画評価シート

新潟大学附属幼稚園

(本年度、重点的に取り組む事柄)

【幼児教育】・一人一人の育ちと保育のねらいを保護者とも共有し、丁寧な見取りを基に幼児教育の質の向上に努める。
 【教育研究】・新潟大学、地域の行政と連携し、地域の幼児教育のプラットフォーム的な役割を果たしながら、幼小接続や幼児教育の質の向上に貢献する。
 【教員養成】・幼児教育、教職の魅力ややりがいを伝え、教職への意欲を高める教育実習を実施する。

学校関係者評価	
A	とても適切である
B	概ね適切である
C	あまり適切でない
D	適切でない
E	判定できない

評価項目	具体的評価項目及び指標	学校関係者(学校運営協議会)評価	
		評価	意見・理由
【幼稚園教育要領に沿った教育を実施する園として】 ①重点目標「主体的な子」「遊び込む子」「協働できる子」に向かい、目指す遊びの姿「心を動かし、主体的に環境に働きかけて楽しみながら遊び込む」を通した人格形成の基礎の育成。 ②子ども一人一人を見取り、幼児教育の質の向上を支える持続可能な評価システムの構築。	①「心を動かし、主体的に環境に働きかけて楽しみながら遊び込む姿」に見られる「願い」「繰り返し」「没頭」「対話」「思考」の様相の評価基準から、どの子も要件を満たす遊びをすることができる。保護者アンケート「園での遊びを楽しんでいる」「やり始めた遊びに取り組んでいる」90% ②デイリードキュメンテーションとカンファレンスを研修と関連付けながら、負担感なく継続できる評価システムを開発し、実施する。職員評価80%以上	A	・子どもの発想を大切に、ダイナミックな遊びが展開されている。遊びは泡のように一瞬だが、それを教師がどこで捉えてフィードバックしていくかがポイント。先生方がよくやってくださっている。 ・発想力やそこからの発展のすごさに感心している。先生方のサポートがあってこそだと思う。 ・デイリードキュメンテーションの取組が続いていることが素晴らしい。こうしたことの継続で、子どもの姿をしっかりと見取ることができている。保護者にも地域にももっと発信していくとよい。附属幼稚園が存在していることの意義は大きい。 ・園開放という形で、附属幼稚園のことを多くの方に知っていただき、附属幼稚園の素晴らしい保育を知っていただく機会になればいい。今年度回数を増やし、多くの方に来園していただくことは園児獲得にもつながる。
【教育研究を推進する園として】 ①幼児教育研修会「保育のとびら」、幼小中接続アドバイザーや研修会の講師としての実践提供・指導・助言を通した、地域の園や学校が幼児教育や幼小中接続への理解を深めることへの貢献。 ②行政、大学と連携した合同研修会「遊びのとびら」を地域に根付かせ、保育の質の向上に寄与するための運営と内容の充実。 ③大学との共同研究の推進と成果の還元。	①他園や小学校、教育委員会へ保育の質の向上や幼小中接続に資する資料の公開、指導・助言。3回以上 参加者アンケート「学びがあった」「勤務園・校での実践への意欲が高まった」80%以上 ②参会者アンケート「保育観・子ども観の更新につながった」とする回答85%以上。各行政担当者の肯定的評価90%以上。 ③大学との共同研究を推進し、その成果を保育や地域に還元し、保護者にも発信する。3回以上	A	・幼小の接続は、小学校に向けて接続するイメージだが、もっと小学校から幼児教育を知ってもらいたい。幼稚園で培われた力が小学校につながっている。 ・幼稚園でのキラキラした子どもの姿が小学校以降でどう生かされているのか。附属小学校の先生が幼稚園をよく知ってくださっていることはわかるが、小学校では学習内容があり、難しいと感じる。交流もあり、職員同士の研修も一緒にやっているということなので、これまで以上に期待する。
【教員養成を行う園として】 ①附属長岡校園の特色を生かしながら幼児教育の魅力とやりがいを伝え、教職への意欲を高める教育実習の実施。 ②日常的な研修の取組の公開と学生の参加の受け入れ ③教員の資質・能力の向上に寄与する工夫した講座及び講義の実施。	①教育実習を通して、幼児の生き生きと遊ぶ姿とそれらを支える教職員の姿から幼児教育の魅力ややりがいに気づき、教職を目指す意欲が高まった実習生85%以上 ②ウィークリーカンファレンスの公開3回以上 ③大学、教職大学院、養護教諭特別別科等向けの講座等を実施する。3回以上	A	・職員が少ない中で、教育実習に大学の講義にとやっていることは素晴らしい。無理のないようにお願いしたい。